とうきょう すくわくプログラム活動報告書

0

施設名	太陽の子　中野中央保育園
施設所在地	東京都中野区中央1-13-8　大橋セントラルビル2階
法人名	HITOWAキッズライフ株式会社

１．活動のテーマ

＜テーマ＞

生き物

＜テーマの設定理由＞

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）

・５月の行事「プラネタリウム鑑賞」に行った際、生き物の星座を見て子ども達が興味を示したため、今年度のすくわくのテーマは「いきもの」にしました。

２．活動スケジュール

【プラネタリウム遠足での気付き】
5月　プラネタリウム鑑賞　生き物の星座を見て、生き物に興味をもつ。

【廃材で生き物を作る】
5月～7月　段ボールや廃材、テープなどを用意し、造形遊びが楽しめる環境を提供する
6月担任同士で、子どもたちが創造を楽しめるようにするには何を用意したらよいか話し合う。スーパーにダンボールをもらいに行き、動物の造形を行う。

【動物園見学に向けて準備をする】
頼んだ段ボール・絵の具・折り紙、テープ類を子どもたちが自分で取りやすい位置に設置し、より造形遊びが楽しめるようにする。動物園でガイドさんに案内してもらう動物をこども会議で話し合い決める。
段ボールだけでなく、粘土やブロック等身近にあるものも使用しながら、いきものを表現する。(平面・立体・動物に関する知識などそれぞれが得意なことを行う）

【井の頭自然文化園に行く】
12月4日　井の頭自然文化園の動画や、動物の図鑑を見る。
12月5日　井の頭自然文化園に行く。帰りの電車の中で探検バッグを使用して絵を描き、話しながら振り返りをする。

【発表会に向けた準備】
12月～1月
1月の発表会では先日行った井の頭自然文化園でみた動物をテーマとして発表することを決める。子どもたちと話し合い踊る楽曲を決める。室内で子どもたちと一緒に踊っていると、「サルの時はこんなポーズいれたらどう？」とそれぞれが動物をイメージしながら、オリジナルの動きを取り入れる姿が見られる。

室内活動の日は主任が入り、動物の製作を一緒に行う。動物園での体験をもとに、写真を見たり、自分の中で思い出したりして、更に作品を創造していく。子ども達に印象に残った動物について話を聞きながら、立体製作をする動物を決めていく。購入した段ボールも使用しながら、動物の製作を行う。

【国立博物館にいく】
国立科学博物館の回る場所についてパンフレットを見ながら決めていく。
1月20日　国立科学博物館に行く。博物館にはどんなものがあるのか、音声ガイドを使用しながら気付きを話したり、持って行った探検バッグを使用して絵や文字を書いて振り返る。

【園内での展示会】
１月27日　異年齢児に作品を見せるために、博物館のような展示会を行う。
2月　　　保護者向けに博物館の際の動画を交えながら、展示を行う。

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）

段ボール・廃材・図鑑・絵具・テープ・折り紙・クレヨン・マジック・スクリーン・色画用紙
・紙粘土・セロテープ・ガムテープ・色ガムテープ・探検バッグ

４．探究活動の実践

＜活動の内容＞

【プラネタリウム遠足での気付き】

・プラネタリウム遠足の後、廃材で動物を作ったり、星座を作る姿が見られる。

【廃材で生き物を作る】

創造しながら、学ぶ

・段ボールや廃材、絵の具、粘土、玩具などを使用し自分なりに動物を表現した。

・活動の中では、自分の頭の中の創造だけで作っている為、思った通りにいかないこともあったが、自分で考えたり、他者を頼りながら想像していた。素材に限りがあり、想像の通りには作れず、匙を投げることもあった。

・身近にある玩具も使用しながら、それぞれが想像しながら動物や恐竜を作り上げていた。

・図鑑などを見て、より動物への関心を持ち知っている知識を披露したり、動物の姿かたちに興味を持っていた。

2.室内環境を変え、子どもたちの遊びを観察する

・廃材遊びやテープ、のり、クレヨンなどが自由に使えるようになることで、自ら「〇〇を作りたい」などと伝えることが増えてきた。また、図鑑を表紙が見えるように置くことで、持ち出して見たり、それを見ながら造形遊びを楽しむ姿も見られた。

【動物園見学に向けて準備をする】

3.本物の生き物を見た後の子どもの創造の変化を観察する

・実際に動物園に行ったことで、「リスしっぽが大きかったね」「もるもっとの目赤かったね」「モルモットふわふわだったね」と話し、絵を描く際に毛を表現する子もいた。製作の際には、「モルモットの毛はふわふわだったよね」「じゃあ綿を付けてみようよ」と提案していた。

・クイズが好きで、動物に関するクイズを覚え、遊び感覚で知識を披露する姿が見られた。

・博物館に行き、様々な展示物を見て、動物についての知識や構造、また博物館での展示方法に関心を持ち、帰園後更に創作意欲が高まっていた。

・図鑑を見ながら「ここは緑だよ」「上は茶色！」「歯はとがってて、灰色だよ」とそれぞれが意見を出しながら色を付けていた。

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

（活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等）

作っていく中で日々、「動物の口はどうなっているか」「しっぽはどんな形か」など調べながら、造形する。うまくいかなかった際は、どう改善したらよいのか考えていた。また、保護者や他児に作品を見せたいと話す姿が見られた。

段ボールで作っていた動物を、ボランティアに来ていた高校生と一緒に考えながら組み立てていく。なるべく自分で考えていたが、難しい部分は「どうしたら良いかな」と質問をしながら製作していた。作成したものについて「お母さんに見せたい」などといった発言も見られた。
製作に行き詰った際は、保育者が寄り添いながらも答えは言わず、「どうしたらよいと思う」と切り返し、自分で考える機会が増えるようなかかわりをしていった。また、得意な児に対しても、作成の過程を褒め、本児の前で他者に良いところを伝えるなどしていった。
保育者や他児に聞いたり、自分で考えたりしながら、引き続き段ボールや廃材、粘土、レゴブロックなどで動物や恐竜を表現していた。図鑑を一緒に見ていく中で、「この動物には毒があるんだよ」「ライオンって肉食なんだよ」などと動物の生態にも興味を持つ姿が見られた。また、子どもたちから「動物が見たい」といった発言も見られた。
図鑑を保育者や友達と一緒に見て行く中で、「家で猫飼ってるから、ヤマネコ好きなんだ」「私もヤマネコ好きだよ」「リスってしっぽが大きいね」などと動物の話をして盛り上がっていた。
動物園では、「やぎやモルモットに名前があったね」「リスってどんぐり食べないんだね」「モルモットはふわふわだったね」とそれぞれが見て、聞いて、触って様々な発見について共有していた。
ブロックで動物や恐竜を表現する姿が多く見られるようになった。また、実際に動物園に行くことで、知識を深めたり、動物の構造にも興味を持ち、より様々な素材で動物を表現することを楽しむようになった。
大きくなったね会(発表会)では、生き物をテーマにして、子どもたちが身につけた知識を振り返りながら披露できるようにする。
博物館に行く前に動画を見たことで「恐竜作りたい」と話し、立体の恐竜を作ることになった。博物館では、動物の姿を見て角の大きさや動物の名前などに興味を持ち、保育者が「中はどうなってた？」などと問いかけると「薄暗かった」「動物の声が聞こえた」と展示方法も見ていた。帰園後に保育者が博物館での気付きに付いて問いかけると、「手に✕のマークがあった、あと韓国語も」と話し、製作する児もいた。

5．振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

〈いきものについて〉

①取組前の姿

一人すごい興味がある子どもがいる一方で、ほとんどの子どもたちはあまり興味を示さなかった

制作が得意なも子どももいたが、苦手で周りを頼ってしまう子どももいた

②取り組みによる変化

図鑑などに触れることで身近なペットの話になったりして、クラス全体が少しずつ動物に興味を持ち始めた。また、動物園に行く日が近づくとクラス全体が意欲的になって行っていると感じた。動物園や博物館に行き、知識が増えた。更にクイズが好きな子ども達は、保育者や友達にどうぶつのクイズを出す姿が見られるようになった。

③気づき

子ども同士のやり取りだけでなく、保育環境や人的環境についての大切さを再確認した。1つの目標に向かうことで、それぞれの得意なことを行おうとしたり、自分の意見だけでなく、他児の意見を聞く姿が見られるようになってきた。活動を通して体験を積み重ねることで、子ども達の心の成長や経験につながったと思う。興味のある子が一人でも、活動を広げられることができる。

本物を見に行くという経験が子どもたちにどう影響したか。

子ども同士でいいあう、話し合う、相談することで共同性が発達。活動を最後まで進められる。自信がついた。

④今後への展望

この活動を通して様々な知識が身に付き、社会生活とのかかわりも学び、様々なことを経験し、失敗しても次も頑張ろうと思える力や試行錯誤する力が身に付いた。テーマは「いきもの」だったが、生き物に対する探求心や知識だけでなく、子どもたちの自信が育ったのではないかと思う。今後も環境を大切に保育を行っていく。